

まちの日記帳



新聞が高齢者等の孤立を防ぐ 地域見守り調印式

2/23

北海道新聞後志地区会（町内4販売所）との高齢者地域見守りに関する調印式が総合文化センターで行われました。

これは、北海道新聞創業130年を記念して行われた事業で、北海道新聞社、道新連合会、道新販売所が全道179市町村と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、孤立防止や支援が必要な人を把握することで、地域を見守る体制を作ることを目的としています。

町内にある4ヶ所の新聞販売所の協力により、今後、高齢者等への地域見守り活動がさらに強化されます。



歴史ある地域奉仕活動 日赤余別地区奉仕団定期総会

3/1

日赤余別地区奉仕団（新井田明見委員長）の第52回定期総会が余別地区コミュニティセンターで行われ、18名の団員が参加しました。

当町で唯一の日赤奉仕団。同団体は、昭和40年に発足以来、地区の清掃活動や各種募金活動、歳末助け合い運動への協力など歴史ある様々な奉仕活動を行ってきました。この日も、今年度の奉仕活動への参加・協力が約束されました。

また、平成27年に設立50周年を記念して更新された団旗も掲げられ、団員の皆さんが今後の奉仕活動に気持ちを新たにしていました。



今を生きる幸せを考える 町民文化講演会

3/8

人権問題に理解を深め、豊かな人間性と地域社会を形成することを目的とした「町民文化講演会」が総合文化センターで開催され、98名が訪れました。

講師に、「松本サリン事件」の被害者でありながらも、第一通報者であったために犯人扱いされ、また、同じ被害を受けた妻を看取るという経験をされた河野義行氏（愛知県）を迎え、今を生きる幸せについて考える講演を行いました。

事件発生から入院、警察・マスコミなどからの疑惑、その疑惑を晴らすまでの1年間について詳細に語られ、「妻が生きることが自分にとっての原動力だった」との壮絶な体験をした講話に、訪れた方々は、うなずきながら真剣に聞き入っていました。



みんなで歌って元気に！ 第4回リフレッシュ学級

3/9

B&G海洋センターで第4回リフレッシュ学級「みんなで歌おう 歌のルーツはわらべうた」が行われました。

講師に、余市町生涯学習歌声サークル「コールアミーケ」の藤田繁氏と大高めぐみ氏を迎え、腹式呼吸や発声方法の指導の後、実際に古くから歌い継がれてきた懐かしいわらべうたを歌いました。

講師の「歌い継がれてきたわらべうたは私たちの心を癒し、元気にしてくれる力があります。」という言葉通り、参加者はこの教室を大いに楽しみ、明日への活力としていました。



“良いもの” 当たって！ 岬の湯しゃこたん「ビンゴ大会」

3/4

3/11

岬の湯しゃこたんで日頃のご愛顧に感謝し、「ビンゴ大会」が催され、入浴客などが運試しを楽しみました。

昨年に引き続いてのビンゴ大会には、町内外13社の協賛をいただき豪華景品が用意されました。

参加者は、一つひとつ番号が読み上げられるたびに「リーチ!」「ビンゴ!」と大きな声を上げてゲームを楽しみ、会場は賑やかな雰囲気にもまれた一日でした。



“人”と“馬”の関わり 土田玲子氏による講演会

3/20

総合文化センターで「ちょっと気になる子どもたちの社会参加・牧場の暮らしと感覚統合」と題した講演会が行われ、町内外から26人が参加しました。

講師に、日本感覚統合学会会長の土田玲子氏（長崎県）とどさんこミュゼ㈱の寄田勝彦氏（七飯町）を迎え、感覚統合理論から子どもたちの個性や馬との関わりを考える講演を行いました。

「ちょっと気になる」とは、体や心に生きにくさを持っている人のことで、アレが出来ないからダメと目を逸らすのではなく、その人の特徴を受け入れ手を差し伸べることが大切だという話や、馬との触れ合いは体と心にプラスの作用が期待できるという話に、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。



▲土田玲子氏（左）と寄田勝彦氏（右）